

元気で豊かなまちを次の世代へ

秋田市は市制130周年

元号が平成から令和へと変わり、歴史の転換期となった今年、秋田市にとっても市制130周年の節目の年となります。この機会を捉え、市では、中心市街地や各地域で開催されるイベント・まつり、美術館の企画展、国際交流事業などを「市制130周年事業」として実施しています。

こうした取り組みを通じ、市民のみなさんがこれまでの秋田市の歩みに心を向け、地域の歴史や魅力を再発見することで郷土への誇りと愛着を深め、暮らしの豊かさの実感へとつながられるようなきっかけにしてもらえたらと考えています。

これからも、本市の基本理念「ともにつくりともに生きる人・まち・くらし」の実現に向けて、秋田市はその歩みを進めてまいります。

【問い合わせ】

企画調整課 ☎(888)5462

振り返る秋田市の130年



明治22年▶秋田市誕生。7月12日、土手長町中丁(現在の中通三丁目)に市庁舎を開庁。初代市長は小泉吉太郎(上の写真)

明治38年▶奥羽本線全線開通

明治40年▶上水道の給水開始

明治42年▶市庁舎を土手長町上丁(現在の千秋矢留町)に移転

(二代目庁舎)

大正9年▶秋田市商業学校(現在の秋田商)が開校

▶第一回国勢調査で秋田市の人口3万6千281人を走る

大正14年▶乗合自動車(初代)が初めて市内を走る

昭和3年▶市章を制定。7月12日を「市の記念日」と制定

昭和6年▶路面電車運行開始

昭和9年▶秋田大橋完成

昭和13年▶雄物川放水路完成

昭和14年▶秋田城跡が国指定史跡に

昭和20年▶土崎地区に空襲〜終戦



昭和の街並み(横町)



三代目庁舎の落成式



昭和39年の聖火リレー



二代目庁舎(空撮)



市電が走っていた頃の広小路

昭和40年▶市電が終了

(三代目庁舎)

昭和39年▶東京オリンピックの聖火リレーが秋田県に

▶市庁舎を山王に移転

昭和30年▶金足村と合併

昭和33年▶市立美術館が開館

昭和36年▶秋田空港が新屋に開港

▶秋田国体(まごころ国体)開催

井田・四ツ小屋・上北手・下北手・下浜)

昭和26年▶「広報あきた」を創刊

昭和27年▶第1回秋田市成人式開催

昭和29年▶市立秋田病院が開院

▶秋田市周辺12の村と合併(太平・外旭川・飯島・下新城・上新城・浜田・豊岩・仁井田・四ツ小屋・上北手・下北手・下浜)



広報あきた第1号